

経営比較分析表（令和4年度決算）

長野県地方独立行政法人長野県立病院機構 阿南病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
地方独立行政法人	病院事業	一般病院	50床以上～100床未満	非設置
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	12	-	ド透	救へ
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	不採算地区中核病院	看護配置
-	10,910	第1種該当	-	10:1

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
85	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	-	85
最大使用病床（一般）	最大使用病床（療養）	最大使用病床（一般+療養）
55	-	55

グラフ凡例

- 当該病院値（当該値）
- 類似病院平均値（平均値）
- 【】 令和4年度全国平均

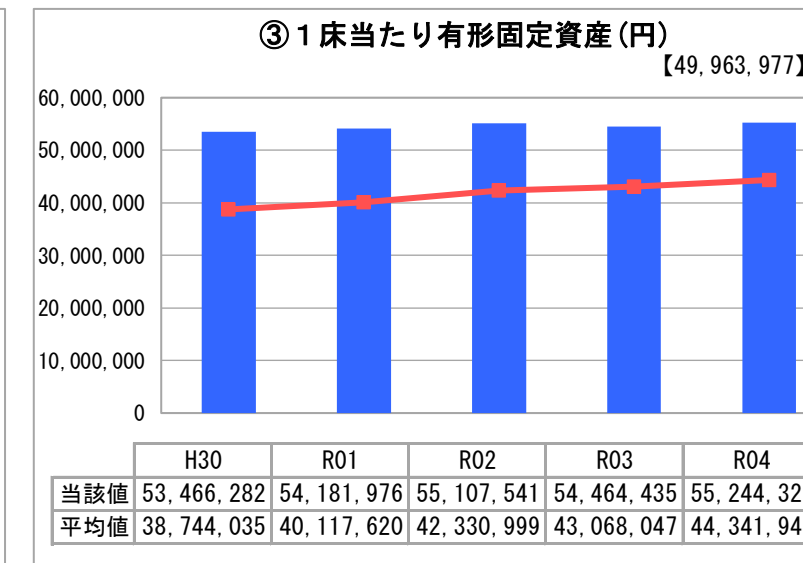
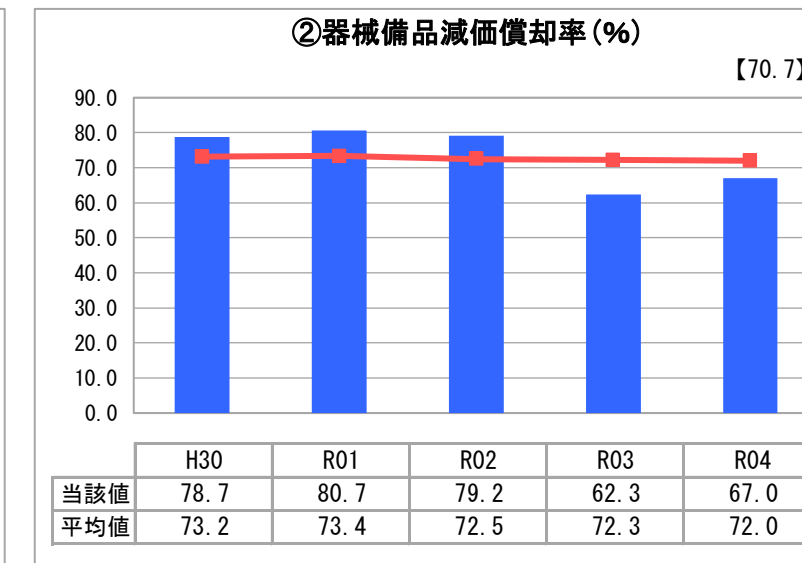
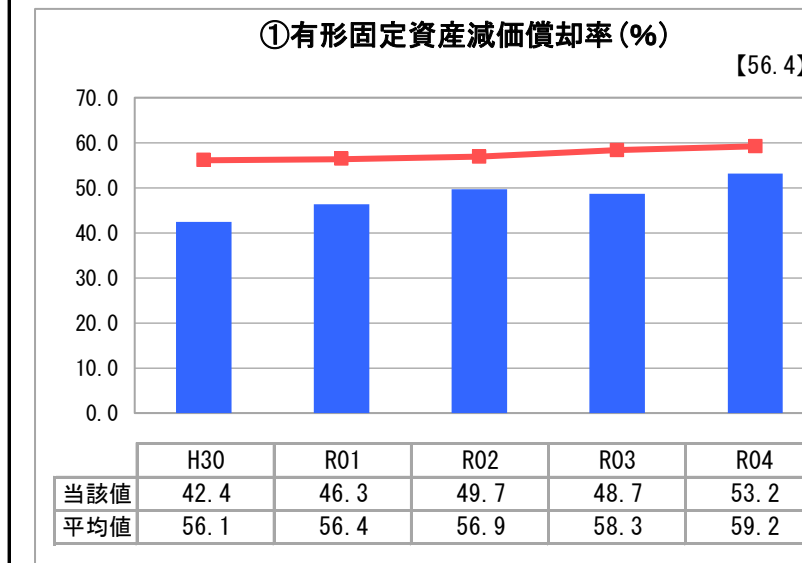
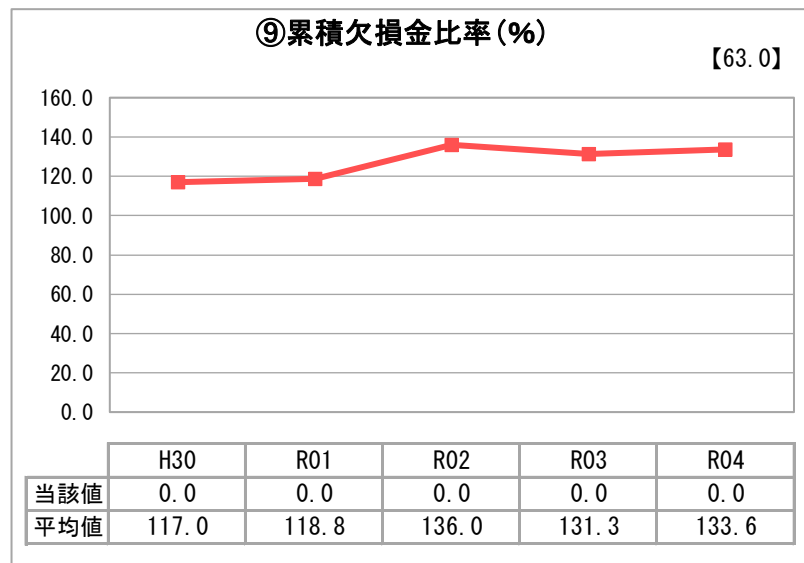
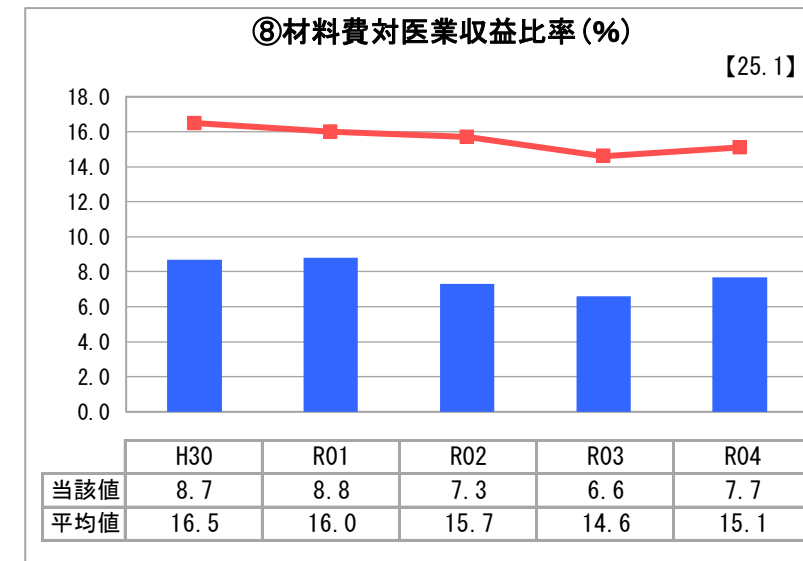
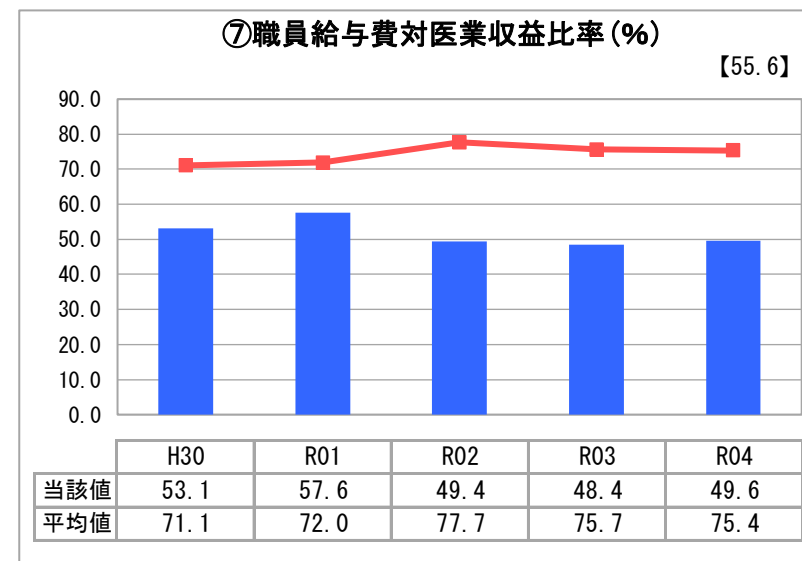
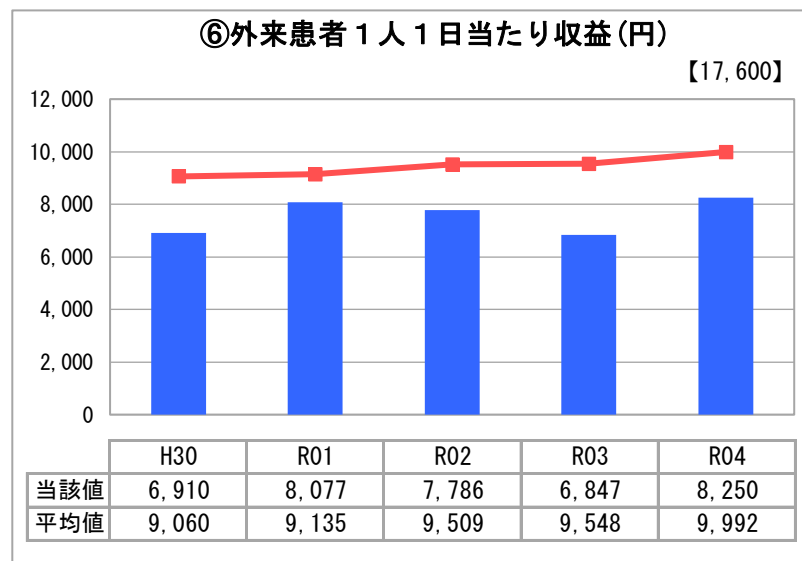
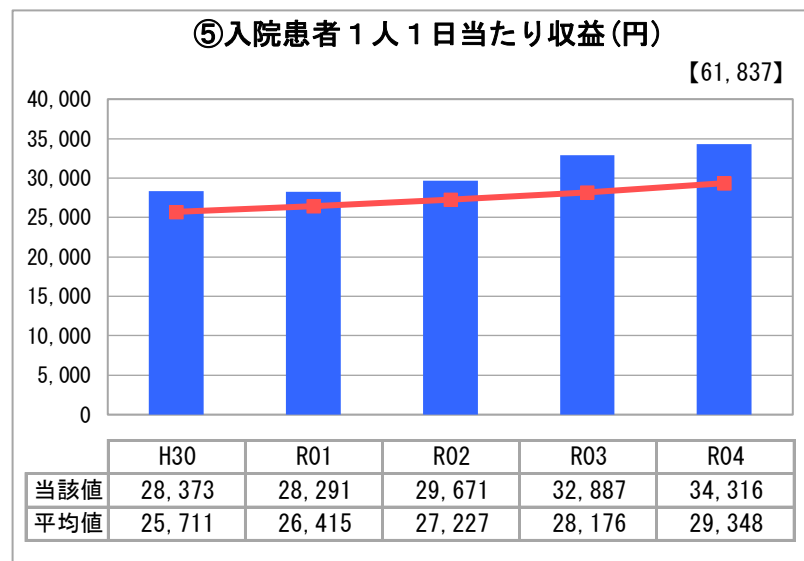
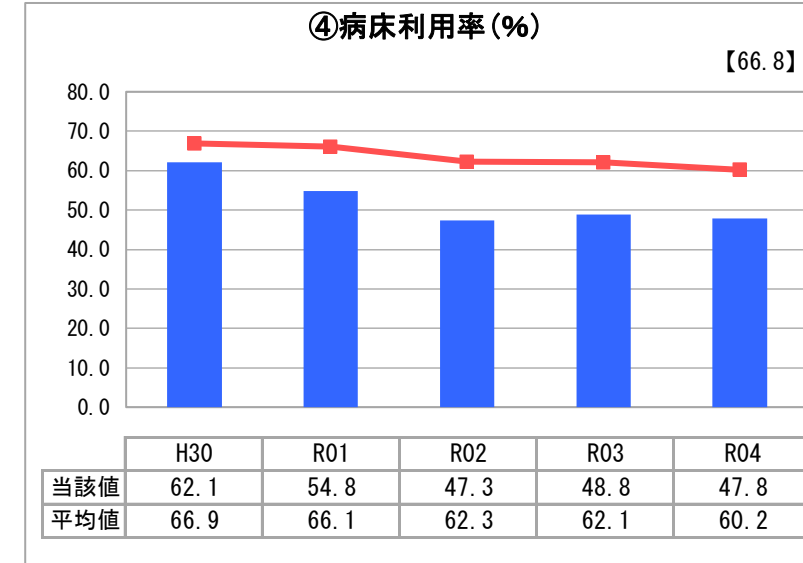
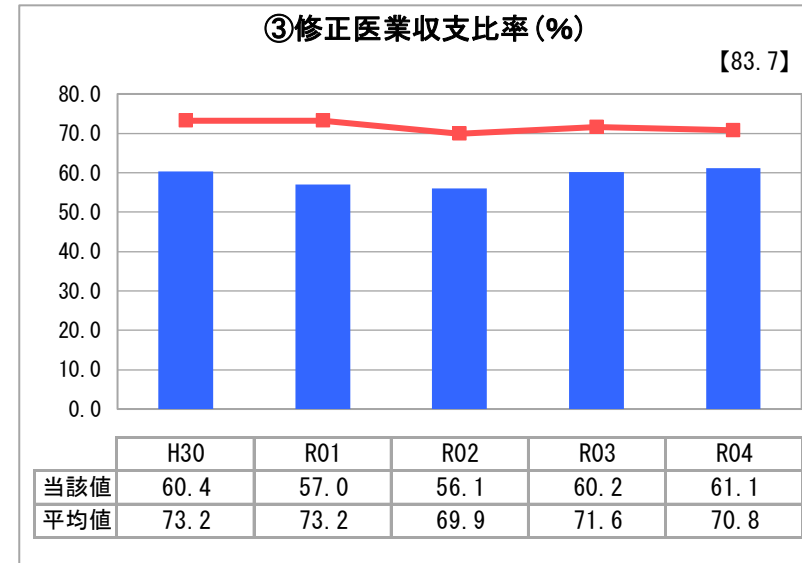
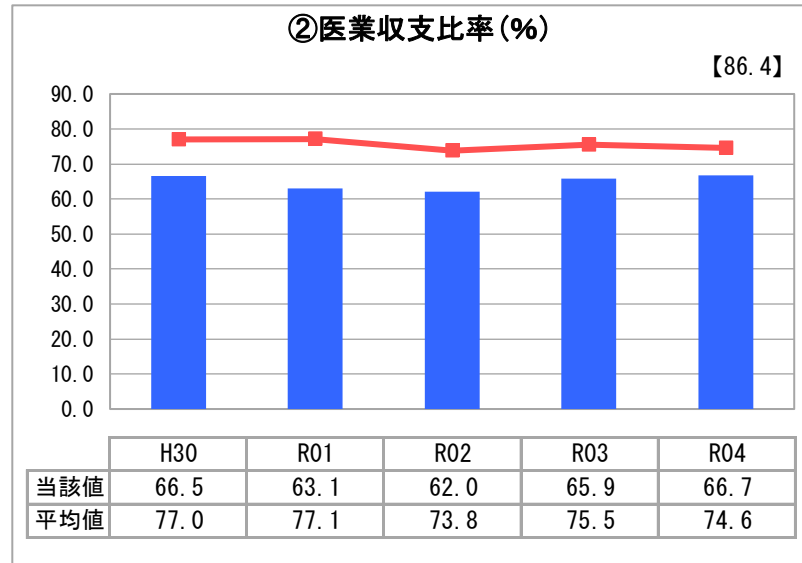
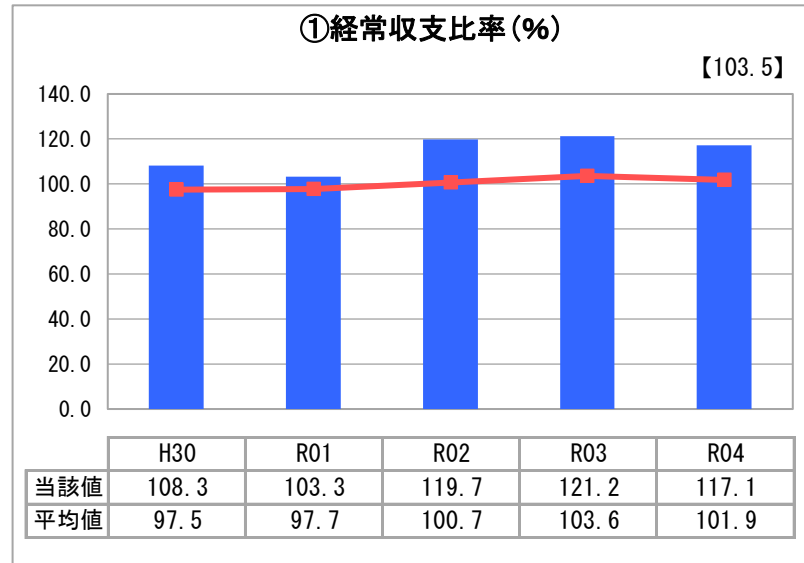
※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

公立病院改革に係る主な取組（直近の実施時期）

機能分化・連携強化 (従来の再編・ネットワーク化を含む)	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
-	平成22年度	-
-	年度	年度

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況

I 地域において担っている役割

長野県下伊那郡南部地域の中核病院として二次医療を担っており、へき地医療拠点病院、救急告示病院として、地域住民の疾病予防、早期発見、治療及び救急患者の対応に寄与している。
へき地巡回診療を昭和30年代から継続しているほか、訪問診療・訪問看護・訪問リハビリテーションなどの在宅医療にも力を入れており、近隣の診療所や地元自治体とも連携しながら地域のニーズを踏まえた地域医療を提供している。
さらに、併設の阿南介護老人保健施設とも連携し、医療と福祉の切れ目のないサービスを提供している。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

・令和4年度は、①経常収支比率は、新型コロナウイルス病床確保料や発熱患者の増加などにより高い水準を維持しており、類似病院平均値を大きく上回った。
②医業収支比率は、前年度よりも改善しているが、収益の多くを県運営費負担金が占めていることから、類似病院平均値を下回った。
④病床利用率は、新型コロナウイルスの影響等が原因で前年度より減少しており、類似病院平均値を大きく下回った。
⑤入院患者1人1日当たり収益は、新型コロナウイルス感染者の診療報酬の加算、地域包括ケア病床の稼働などにより上昇している。

2. 老朽化の状況について

免震構造の本館棟は平成25年度に完成しているが、昭和60年度に建築・改修された東館・西館については、ともに不具合箇所が散見される。計画的に修繕を実施するとともに、改築を視野に入れた経営計画を検討していく必要がある。
また、器械備品減価償却率は前年度比で上昇しており、引き続き収支のバランスを踏まえた上で、計画的に医療機械備品を更新していく必要がある。

全体総括

経常収支比率は5年連続で100%以上を達成しているが、医業収支比率は60%台で推移しており、本来の医業活動から生じる医業収益だけで賄われている状況にはない。
高齢化と人口減少が著しい長野県下伊那郡南部地域における唯一の中核病院として、健全経営に努めつつ、地域包括ケア病床の積極的活用や在宅医療の推進など、地域のニーズに沿った病院運営を進める必要がある。

※「類似病院平均値(平均値)」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。